

【意見提出様式】

成瀬ダム建設事業の検証に係る検討に関する意見募集について

～治水、利水、流水の正常な機能の維持の対策案と概略評価について～

①氏名（フリガナ）	成瀬ダムをストップさせる会			
②住所	〒019-0513 横手市十文字町植田字一ツ屋 7 1			
③電話番号又はメールアドレス	info@stop-narusedam.jp			
④職業		⑤年齢		⑥性別
⑦ご意見（下記の項目毎に200文字以内で記載してください。なおご意見が長文の場合は、別途自由様式で記載してください。その場合は、下記枠内に要旨を200字以内で記載してください。）				
治水	<p>1)今回立案した複数の対策案以外の具体的対策案の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雄物川中流域における現事業（「雄物川中流部緊急対策事業」、強首地区下流の樋門工事等）を着実に早期に行うこと。 ●おもに雄物川・玉川合流点より下流域での河道整備・河道掘削を年次計画を立てて着実に行うこと。 ●集中豪雨に備えるために、「広く浅く」の遊水地を確保すること。周囲堤は過大なものでなく現実的なものを工夫すること（周辺で進められている土地改良事業と連携し、集落を守る農道などを利用することや秋田自動車道を利用することを考える）。 ●関係自治体と連携し、遊水地を地役権方式で最大限確保するよう努力するとともに、被害の際の共済制度を充実させること。 			
	<p>2)今回行った複数の対策案に係る概略評価及び抽出に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ●過大な目標設定（河川整備計画素案等）で洪水を河川に封じ込める発想から、流域全体で現実的な治水対策を積み上げていく考え方に転換すべきである。 ●成瀬ダム単体の、下流域に対する治水効果の検証を厳密に行うべきである。 ●昨今の土木建築工事では、一つの工事を施工する際に複数の企業が共同で工事を受注し施工する共同企業体という組織形態が見られるが、こと官庁同士ではどうであろうか。治水における遊水地対策案などは国交省だけでなく農水省などとの共同作業、調整が必要と思われる。 			
新規利水	<p>1)今回立案した複数の対策案以外の具体的対策案の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ●（かんがい用水について）除草剤を効かせるための減水深 20 mm/日以下という基準で必要量を再検討し、過大な取水量を是正することを関係者に求めること。 ●平鹿平野の扇状地上部（増田町・十文字町地区）に雪解け水、洪水時の水を溜める貯水池・遊水池を設け、夏場の渇水期に備えるとともに、適宜、地下水涵養のために利用すること。 ●夏場のかんがい用水確保策として、皆瀬ダムの運転規則を改定し、7月1日までに機械的に貯留水を放流するのではなく、アメダス情報等にもとづいて貯水・放流をコントロールすること。 ●（水道用水について）皆瀬川の濁り解消策としても、皆瀬ダム・板戸ダムのヘドロを浚渫し、利水容量を実質的に確保すること。 ●（大仙市の水道用水について）玉川ダムの使われていない工業用水を水道用水として転用することが合理的である。 			

	<p>2) 今回行った複数の対策案に係る概略評価及び抽出に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水が世界的に戦略的な価値を持つなかで、「水を大切に有効に使う」という視点を改めて再認識したい。生態系を破壊することなく、(省エネと同様に) 省水というテーマに取り組まなければならない時代が到来しつつあるということを確認したいと考える。 ●上記のような視点から利水については、河川水にのみ頼るのではなく、多様な方策を模索すべきである。地下水は、地球温暖化の進展のなかで水稻の高温障害対策に夏場の冷水として活用すべきであり、そのためには積極的に涵養するなどして育むべきである。 ●減反(転作)率が38%という現実のなかで、果たして2倍(皆瀬頭首工)の水が本当に必要なかという住民の素朴な声に答える必要がある。 ●今後の農業政策も①の視点に立てば、米余りのなか、対象地域一律の減反(転作)率ではなく、適地適作で米作、畑作の配置を行うことが大切である。 ●代かき期のかんがい用水の確保については、現実に大量の雪解け水が流れているのであり、豊水水利権のためにダムを造らなければならないという呪縛から解放されるべきである。 ●(水道用水について) 当該地域では、少子高齢化、人口減少が著しい。また、節水意識の向上、節水機器の普及等によって水需要は減少の一途であり、ダムを造る必要は全くない。
流水の正常な機能の維持	<p>1) 今回立案した複数の対策案以外の具体的対策案の提案</p> <p>2) 今回行った複数の対策案に係る概略評価及び抽出に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダムによって「流水の維持」を行うという考え方は承服できない。アメリカでは川の生態系の復活のためにダムを撤去し始めている。ダム先進国のアメリカに率直に学ぶべきである。 ●ダム建設に伴う生態系の破壊について、そのマイナス面を定量化する試みを行うべきである。 ●ダムも老朽化し、原発と同じように撤去しなければならない時期が必ず来るのだから、そのコストを今から考慮すべきである。